

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 発達相談支援センターココペリ【放課後等デイサービス】

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		主に指導訓練室(プレイルーム)や園庭で活動を行っている。活動内容や利用人数に合わせて、グループ別で活動場所を分けたり、学習や個別活動は個室や講座室を活用しスペース確保に努めている。	基準を満たしているが児童の成長や利用人数に伴い、活動スペースが狭く感じることもある。引き続き個室や別室(食堂・スヌーズレン・講座室)を活用し、スペース確保に努めたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		職員の感染症発症時など、弊社内事業所間で応援体制がとれる仕組みを整えている。	配置基準を満たしている。利用人数増加時やトラブル時などは職員数が足りないと感じることもあり、弊社内他事業所より応援を頂き対応している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	玄関の入り口部分がバリアフリー化未整備の為、必要時は木製の台をスロープとして代用している。トイレはバリアフリー化されていないが、手すりをつけている(トイレ:二か所あるうちの一か所のみ)。	定期的に設備の点検を行い、快適に過ごせるよう出来る限り配慮していきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	昼礼等で支援の振り返りを行い、目標設定や情報共有に努めている。	全職員がPDCAサイクルを意識できるような仕組みを整え、業務改善に努めていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		親子運動会参加の保護者様にアンケート調査を実施。意向把握・改善に努め、次回開催時に活かしたい。	評価表の結果を職員で確認し、内容に応じた業務改善を実施していく。今後もアンケートにご協力頂くなど、より良い支援に繋げていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。	—
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	—	第三者委員会は未設置。 必要に応じて第三者委員会の設置を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画を立て、オンライン研修や業務に必要な研修を受講している。	研修参加者による事業所内での情報共有やココペリ内での勉強会などを検討していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		標準化されたアセスメントツールを使用している。 また担当者会議等での情報共有や複数の職員で定期的にあセスメントを行い、状況把握・共有に努めている。	子ども達の特性により標準化されたアセスメントツールでは状況把握が難しいこともあり、ツールについては改善が必要。 事業所内での様子からアセスメントを行っているが、ご家庭での様子も同い状況・意向把握に努めたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		以下の活動を振り分け、重複しないよう工夫している。 日生訓練・感触活動・音楽活動・室内活動・外遊び・戸外活動・クッキング・リサイクル・清掃活動	大枠を活動担当者が立案、具体的な活動については複数職員で決定している。 季節行事や長期休暇時など様々な体験ができるよう、引き続き計画していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	休日・長期休暇時は発達状況に合わせ、グループ別の小集団活動を増やしている。	きめ細やかな課題設定が難しい場合も多く、特性や状況に応じて大まかな課題を設定し支援を行っている。日常生活面等、長期休暇単位での課題設定とすることもある。 きめ細やかな課題設定は個別活動で対応していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		昼礼を行い、支援内容・役割分担について確認している。	長期休暇時は送迎・支援にあたるため、朝礼やミーティング時間の確保が難しい。 今年度の夏休みも保護者にご協力頂き一日だけ営業時間を短縮し、ミーティング時間に充てさせて頂いた。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎後は就業時間内の振り返りが難しいことが多いが、出来る限り情報共有に努めている。支援終了後の振り返りが難しい場合は、翌日に振り返りと情報共有を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録漏れが無いかが担当者がチェックしている。	特に長期休暇時は職員が支援・送迎にあたる時間が長く、記録をとる時間の確保が難しい。 記録をとる時間の確保・支援の検証を行える様、仕組みを整えていきたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングはなるべく複数職員で行っている。様々な視点からの意見を集約し、見直しや継続の必要性を判断している。	—	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		—	ガイドラインの内容を確認・把握し、より良い支援に繋げたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		ふさわしい担当者を選出し参画している。	—
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校お迎え時、学校職員と情報共有を行っている。また必要時は学校と連絡調整を行っている。	—
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在、医療的ケアが必要な該当児童無し。お薬を飲んでいる児童についてはお薬情報などを頂き、職員間での情報共有・把握に努めている。	—
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて、就学前に利用されていた施設との担当者会議に出席し情報共有・相互理解に努めている。弊社内の児童発達支援事業所を卒園した利用者についても情報共有を行っている。	—
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		必要に応じて、移行支援会議に出席し移行施設へ支援内容の情報を提供している。	—
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	専門職の外部講師を招き、助言を頂く機会がある。	必要に応じて各専門機関と連携し助言や研修の機会を設けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		今年度は年数回(主に土曜日)、リトルチェリーズ(小中学生ジャズバンド)の皆さんやアロハルミコスタジオの皆さんに演奏やフラダンスを披露して頂き、その際に子ども達と交流する機会があった。	—
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		地域の社会福祉協議会に参加し、研修(オンライン含む)を受講している。	—
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		普段の連絡帳や送迎時のやりとりに加え、担当者会議等で子どもの発達状況や課題について情報共有を行っている。	事業所内相談の機会を設け、共通理解に努めたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	—	実施出来ていない。ペアレントトレーニング等、知識を習得できるよう研修の機会を設けていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		説明や内容が伝わりづらい際はラインやメモで補足するなど、丁寧な説明を心掛けている。	不明点があればお気軽に質問頂けるよう、また迅速にお答えできるよう職員への周知も検討していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談等、話して頂きやすい対応に努めている。	保護者会や事業所内相談の機会を設け、情報共有や共通理解に努めたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		令和6年2月に保護者会を実施予定。	—
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		発生時は職員間で迅速な情報共有に努めている。また相談・苦情解決委員会を設置し、子どもや保護者に適切に対応できるよう体制を整備している。	—
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りにて活動概要や行事予定を発信している。体験行事については別途文書で連絡帳と一緒にお知らせする場合もある。	—
	35	個人情報に十分注意している	○		必要に応じて鍵付きロッカーへの保管を行っている。	個人情報の取り扱いについては引き続き職員間でセキュリティ意識をもち、業務を行っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳でのやりとりで不足する場合は、口頭(電話)や文書・ラインなどでお知らせしている。	—
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ココペリマルシェを開催している。	—

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各種委員会にてマニュアルを作成、事業所内に掲示し職員への周知を行っている。	保護者が来所した際に要望があれば、確認していただけることをお便りなどで周知していく。保護者への周知については今後の課題とする。また所属する委員会以外のマニュアル内容把握にも努めていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を実施し、お便りでお知らせしている。	発生時にスムーズに対応できるよう今後も定期的に行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待身体拘束防止委員会を設置。年度ごとに研修機会を設け虐待防止意識を高めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在、該当児童無し。 対象児童が在籍した場合は、あらゆる場面を想定し保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で対応していく。	今後も虐待や身体拘束について、職員が学びを深めていく機会を設ける。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現在、食物アレルギー該当児童無し。 動物アレルギーや花粉症等については保護者から頂いた情報に基づき、職員間で情報共有しできる限り対応を行っている。	在籍した場合は、医師の指示書または保護者からの情報に基づき対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成し情報共有を行っている。 委員会で各事業所のヒヤリハットを持ち寄り、情報共有に努めている。	ヒヤリハットの情報共有は迅速に行えるが、事例によっては改善策まで含めた報告書作成に時間がかかかってしまう。 報告書作成について迅速に行えるよう、事業所全員が意識していく。